



## 交通マナーで準優勝

9/14 すこやか信州交通マナー競技会

高齢者の交通事故を減少させるために企画された「すこやか信州交通マナー競技会」(長野県警察本部主催)が9月14日、塩尻市の中南信運転免許センターで開かれました。

この競技会は、県内の警察署から選出された高齢者が、歩行者・自転車・電動車イス・四輪車(法規・技能)の各部門に分かれて筆記試験と実技試験を行い、交通安全知識と安全運転技術を競うものです。

本年度は、県から高齢者交通安全モデル地区として指定を受けた堀金地域から、安曇野市老人クラブ連合会堀金支部の5人の皆さん(下記)が出演し、準優勝の栄光に輝きました。

●**出場メンバー(敬称略)**: 隼田義勝(歩行者部門)、丸山郁夫(自転車部門)、一志実(電動車イス部門)、横山昌隆(四輪車 法規部門)、金森義尹(四輪者 技能部門)

## おすすめの「フリースペース」

9/26 市民活動センター・くるりん広場が1周年



## スポーツで地域に活力を

9/8 木田マネージャーが表敬訪問

信濃グランセローズ(三澤今朝治代表)の地域貢献マネージャー・木田勇さんが9月8日、市役所を訪れ、球団の今後の健闘を誓いました。信濃グランセローズは、プロ野球独立リーグに所属する長野県のプロ野球チーム。中信地区では松本、大町の球場でホームゲームを行っています。木田さんは、「中信地方は野球に詳しいファンが多い。県民球団として多くの皆さんに親しんでほしい」と語り、安曇野市民の応援を要請しました。平林市長は、「時間をかけてでも、地域のためにがんばってほしい」とエールを送り、球団の応援旗に署名しました。

市民活動センター「くるりん広場」を運営するわの会(今泉一会長)は9月26日、より多くの人に施設に親んでもらおうと、「くるりん広場の日」を開催しました。

この日は、開設1周年の記念セレモニーや活動発表会、音楽会などが開かれ、家族連れや穂高商業高校の生徒など約80人がイベントを楽しんでいました。

くるりん広場は、市民活動を活性化するための拠点として昨年10月にオープン。活動団体と行政の情報コーナーやパソコンコーナーなどがあり、まちづくりに関するさまざまな情報が取得できます。また1階と2階に設けられたフリースペースには、20席程度の会議テーブルがあり、予約なしでも利用できます。今泉会長は、「簡単な打ち合わせなど、気軽に使ってほしい」と利用を呼び掛けています。

## 市政トピックス

### 「有明の森保育園」が完成

有明の森保育園の新築工事が完了し、9月28日に現地ですしゅん工式が行われました。

昭和49年に旧有明小学校跡地に建設された旧園舎は、老朽化が進み、園児数の増加に伴い、手狭な状態が続いていました。

このため市では、定員230人の保育園を120人ずつに2園化し、それぞれの園舎の新設を目指していました。今年4月には、有明あおぞら保育園が穂高中学校の北に完成。そしてこのたび、有明の森保育園が、

旧園舎の跡地に完成しました。

新しい園舎は周辺の松林や古木と調和した外観で、自然採光・通風が十分確保できるなど、環境に配慮した施設となっています。総事業費は約5億1900万です。



園児と一緒にくす玉割り

### 三郷南部保育園 建設検討委員会が報告

三郷南部保育園建設検討委員会(中西今朝光委員長)は9月30日、これまでの検討結果をまとめた報告書を平林市長に手渡しました。

三郷南部保育園は、三郷地域の野沢、上長尾、下長尾を主な

範囲とする定員120人の保育園です。老朽化と園児数の増加に伴い手狭となり、改築については、旧三郷村の時代から懸案となっていました。

報告書には、園舎を大型農道の西側、県道小倉梓橋線の南側に



報告書を手渡す中西委員長(中央)

移転改築することや、定員を150人に拡大することが望ましいとする内容が盛り込まれています。これを受け、市では平成23年の着工を目指し、候補地の選定を開始する予定です。

### 安曇野の景観を 継承するために

安曇野市景観計画策定委員会(場々洋介会長)は10月5日、景観づくりの視点から、市民と行政が協働で取り組む内容を取りまとめた安曇野市景観計画(素案)を平林市長に提出し



30回に渡り検討を重ねる

ました。同委員会は、公募委員3人を含む15人で構成され、土地利用アンケートの調査結果の分析などから課題を精査し、平成20年6月から、延べ30回にわたって検討を重ねてきました。

会長の場々さんは、「屋敷林をはじめ、安曇野には数々の残したい景観がある。このすばらしさを継承し、景観を保全するために努力したい」と抱負を語ってくれました。市では今後、翌年2月ごろから地域ごとの説明会を予定しています。